

- 神 楽 名 ^{なが うち} 永の内神楽
- 伝 承 地 永の内地区
白杵郡高千穂町大字岩戸
- 指 定 等 国指定重要無形民俗文化財
- 伝承団体 上永の内神楽保存会
代表 工藤 守
下永の内神楽保存会
代表 佐藤 雄一



舞開

□神楽の概要・由来・その他

岩戸永の内地区は、^{ごりょう}御霊神社を^{うじがみしや}氏神社とする世帯数68戸の^{かみなが うち}上永の内公民館と、^{あまのいわた}天岩戸神社東本宮を氏神社とする世帯数78戸の^{しもなが うち}下永の内公民館で構成されている。古くは岩戸村の中心地で、戦国時代には延岡・県北を支配した^{つちもち}土持氏の一族である、^{と だかしょうげんまさしげ}富高将監昌重が岩戸城主として入郷した。上永の内の御霊神社は、土持・富高一族の御霊を祭祀する神社であったが、後に祖母嶽明神や菅原天神が合祀されている。天照皇大神を祭祀する天岩戸神社東本宮は、古くは「^{うじじやだいじんぐう}氏社太神宮」と称され、参道は岩戸往還の通り道であった。

永の内神楽は高千穂神楽の^{いわた}岩戸系統に属する。岩戸地区の神楽は昭和29年から30年にかけて、伝承を守るため^{ほしや}奉者が天岩戸神社で協議し、^{しやうぎやう}番付や唱教の統一が行われた。岩戸地区には、他の高千穂神楽はみられない「^{じやきり}蛇切」が伝承されており、^{すきのおのみこと}素盞鳴尊の八俣の大蛇退治の舞が、高千穂らしい静かな一人舞で奉納される。

□芸能の機会・場所

- 上永の内夜神楽
1 1月の第4土・日曜日、御霊神社にて神事後、神楽宿にて奉納
- 下永の内夜神楽
1 1月の第2土・日曜日、天岩戸神社東本宮にて神事後、神楽宿にて奉納

□演目一覧

宮神事	^{ごしんこう} 御神幸・ ^{みちかぐら} 道神楽	舞込み	^{みこうや} 御神屋	^{たいどの} 太殿	^{かみおろし} 神降	鎮守
^{すぎのぼり} 杉登	^{ちがため} 地固	^ひ 幣かざし	^{ゆみしょうご} 弓正護	^{いわ} 岩くぐり	^{ごしんたい} 御神体	^{そではな} 袖花
^{しば} 柴のり	^{しちきじん} 五穀	^{しちきじん} 七貴神	^{じゃきり} 蛇切	^{ぶち} 武智	^{よんにんちんじゆ} 四人鎮守	^{おきえ} 沖逢
^{だいじん} 大神	^{やまもり} 山森	^{しばびき} 柴引	^{たぢから} 伊勢 手力	^{うずめ} 鈿女	^{ととり} 戸取	^{まいひらき} 舞開
^{くりおろし} 繰下	^{くもおろし} 雲下					

※平成27年11月の上永ノ内神楽奉納番付に基づく

□演目の特徴

岩戸地区には彦舞の伝承がなく「太殿」が最初の舞神楽となる。その後、前半は祓い清めの舞や、諸々の神を招く舞が続く。永の内神楽では、神庭の四人の舞手が塩水で手を浄め、七輪の炭火を手渡しで回す「炭通し」の儀式が、水難除け、火伏せの願神楽の「沖逢」で行われる。「住吉」では、舞の途中に山森荒神が獅子を引き連れて舞い込み、また龍王四人舞の「山森」では乳幼児を抱きかかえて舞い、無病息災・成長祈願神楽として奉納される等の特徴がある。夜明けには岩戸開きの神話にちなんだ「岩戸五番」（「柴引き」「伊勢神楽」「手力男」「鈿女」「戸取り」「舞開」の六番）が奉納され、最後に「繰下」「雲下」で神々を送って終了する。

□その他の特徴

- 面：岩戸地区では、天岩戸神社所有の面が「岩戸五番」に使用される。氏神さまの面は各集落内で保管されており、「入鬼神」「地割」「御柴」「舞開」などで使用する。
- 楽：太鼓、笛
- 装束：白衣、白袴、素襖、千早、裁着袴、どっさり、等。赤い襷を頭に巻き左右両側で結び垂らす「みづら」が多く使用される。
- 採り物；鈴、榊、扇、御幣、杖（荒神杖等）、弓、矢、刀、折敷、帯 等
- 文書：「天岩戸神社社家伝承 岩戸神楽の由来（唱教・御幣の切り方・御注連の飾り方）（昭和30年11月）が保管されている。

□伝承の現状・課題

永の内神楽は、上永の内神楽保存会12名、下永の内神楽保存会13名、合わせて25名で伝承されており、それぞれの夜神楽は両保存会の協力により奉納されている。また当日には、岩戸の他地区から舞い手の加勢も加わる。



弓正護



戸取



山森